



古典から生まれた新しい物語・こわい話 『第三の子ども』

阿刀田高 作

日本児童文学者協会 編 浅賀行雄 絵

出版社 偕成社

この本に収められているお話は、4人の作家が古典作品をもとに、創作したものです。

アキコは、母が亡くなる前に、古代の有名な神様の兄弟にもう一人いると聞かされていました。その秘密は、母の故郷のとある場所に残されていました。母の死後、アキコはその本を読み、自分が何なのかを知ることになります。

『世界恐怖図鑑 3 幽霊・悪霊・ゾンビ』

バーバラ・コックス/スコット・フォーブス 著者

ナカイサヤカ 訳者

出版社 文溪堂

本当にあるのか、それとも想像の産物なのか…
しかし！幽霊と悪霊を見た人々は、今日まで語り続けてきたのだ！幽霊は、姿や形を変えてやってくる。邪悪な彼らを避けられるよう、この本を読むのだ！

この文を書いていたら、突然ペンが割れた…幽霊の仕業か…、悪霊の仕業か…

『落語絵本 まんじゅうこわい』

川端 誠 絵

出版社 クレヨンハウス

これは昔からある落語のお話でございます。
みんなの前で、「まんじゅうがこわい」と言った松つあん。そんなにこわいならとまんじゅうを大量に買って、松つあんの前に置きこわがらせようとする悪いやつら。

さてさて、このあと、どんな展開に？お話の続きは、この本で読んでちょうだい。

【こわーい話特集】

